



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

# INGING NEWS PAPER 2014 VOL.06

Race Report Round.5 AUTOPOLIS 9/14 Final

決勝 2014年9月14日 オートポリス

## 2位表彰台獲得!!

国本2位表彰台・石浦8位入賞 TEAMTOTAL 37PT



TAKE  
FREE  
無料



SUPER FORMULA SUGO 2014 9/27-9/28

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.06 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバーネット 西日本事務局  
〒596-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波富町ビル5F  
2014年09月発行 通巻6号

# A prize is won by the 2nd place.

# 2位表彰台獲得

チームとして表彰台の常連になってきた! 今期残り2戦狙うは優勝!!



**Race Report** 決勝 2014年9月14日 オートポリス  
**Round.5 AUTOPOLIS 9/14 Final**

天候:晴れ | コース状況:ドライ 215.004 km (4.674 km × 46 Laps)

## 九州 オートポリス SUPER FORMULAのシリーズ第5戦

PMU/CERUMO-INGINGの2台をドライブする石浦宏明と国本雄資、公式予選で明暗を分けた2人のドライバーは肉体的にも精神的にもタフなレースを戦い抜き、フロントローからスタートした国本が2位表彰台を獲得、14番手からスタートでジャンプアップした石浦も8位入賞を果たして1ポイントを獲得した。

公式予選が行われた土曜日に引き続き、決勝レースが行われる日曜日の好天に恵まれた。1輪オートレースのフォームアップ走行が続いて、午前8時半からはスーパーフォーミュラの公式予選が行われ、さらに30分間のフリー走行セッションが終了した後に、スタート練習も行われる。順いとして予選されていた国本は、このセッションのデータから1分30秒前後から32秒で周回すれば、途中で燃料補給することなくレースを走りきれると確認できた。ただレースがスタートしたら、燃費とタイヤをマネージメントしながら走る、ドライバーにとどめて十分なレースとなることは予想できなかった。

午後3時少し前に決勝レースの公式スタートが切られた。この時点での気温と路面温度は、それぞれ25℃と36℃、路面はもちろんだら完全ドライコンディションだった。そこから暖やかに低下していき、タイヤに熱が蓄積された時点で23℃と30℃まで低下していたが、タイヤに熱い状況には変わりなかった。フロントロー・2番手グリッドからスタートした国本は、オーロラ・スターの山本博貴選手の伸びが伸びたのを去る前にスタートダッシュでそれをかわしてトップに出た。ただしその直後、インに駆けつけてコーナーへとアプローチ、ブレーキングしたものの

の屋外にも路面がパンビーで少しタイムロス。その間にアウトからアンドレ・ロッテラー選手の先行を許してしまった。ロッテラー選手に喰らいつく恰好で、その隙にしばらく周回を続けた国本だったが、1〜2秒の間隔はそれ以上に詰まることもなければ、反対に引き離されることもなかった。ピットインしてタイヤを交換したりガソリンを補給することもなかった。以上レースは単調なものになる。少なくとも外から見ている限りはそう映る。実際、レースが中絶したとトップを取ったロッテラー選手と、2位に駆けつけた国本のギャップはそれほど大きかった。実はタイヤが磨しくなり、国本はロッテラー選手のペースについていけなくなっていた。結局には後方からジョウ・オ・バ・ド・オ・ペイ選手が猛追してきたが、何とかこれをしのいだ国本は2位でチェッカー、3位入賞したシリーズ第2戦の富士以来となる表彰台をゲットした。

一方、14番手と後方のグリッドからスタートした石浦は、潤滑する上位の選手と保持するものにして一気に単車でジャンプアップしてオープニングラップを終えることになった。そこから、国本がレースを通じて2位のポジションをキープしたように、石浦もまた、8位のポジションをキープすることになった。登りのコーナーが連続するセクター3では、前を行くマシンに必要以上に接近することは難しく、結果的にストレートのコーナーでパンクすることは無量がある。燃費とタイヤのマネージメントは配慮しながらも、何とか前を行くマシンを寄せ取ろうとした石浦は、レース終盤にはジャンプしたものの結局最後で、ポジションを変えることはなかった。それでもスタートでジャンプ

アップしたことで8位でチェッカーを受け、2位の国本ともにダブル入賞を果たしている。

外から見ているだけでは単調に映ったレースだが、実はドライバーは肉体的にも精神的にもタフなレースを戦っていたのだ。それ以上にマシンのポジションや分厚いタイヤの磨き具合、強いシリーズも習性と磨き、残り2戦となったが、必ずや2人揃って表彰台、しかもどちらかが真ん中に立つ。そんな予想が一層確実なものとなる。手ごたえを掴んだオートポリスの1戦だった。

## 05 Race Comment

**#38 石浦 宏明** RACE RESULT 8位

今日のレースはある意味、スタートがハイライトでした。走り始めてからスタートで後方から喰らいついたら、もつと上のグリッドからスタートできたはずで、今日のようなスタートが切れば表彰台の真ん中も見えてくる。だから気持ちとしてはモチベーションです。チームとしても第2戦の富士以外では全戦で表彰台を奪っています。今回の習性は得意なコースなので、是非とも優勝を狙っています。

**#39 国本 雄資** RACE RESULT 2位

今回はピットインがないのでスタートがすべり、ポールの山本選手が出遅れるのをかわしてトップに立つたんですが、インに駆けつけてブレーキングしたら少し路面がパンビーで、そこでアンドレ・ロッテラー選手にアウトからかわられてしまいました。それでも最初は何とかわりついていくことができて、最後は磨ききってしまいました。前グリッド・ジョウ・オ・バ・ド・オ・ペイ選手にも詰め寄られてしまったレースになりましたが、何とか逃げ切ることができました。良いタイムを叩き出したチームに感謝しています。燃料的に厳しいレースになると予想していましたが、それは大丈夫でした。でも、タイヤは予想通り磨きました。今日は表彰台に立つことができ、感激しました。富士で3位、今回2位と、残り2戦、習性と前戦では優勝を狙っています。

**監督 立川 祐路** TEAM DIRECTOR

39号車(国本雄資選手)はキチンと最後まで走って2位入賞を果たすことができました。レース終盤にはアンドレ・ロッテラー選手の速さにはなつと手が届かなかったけど、手番が良い運でついて行けた。チームとしては表彰台の常連になってきた。一方、38号車(石浦宏明選手)は、スタートでジャンプアップして8位入賞、予選のミスを取り返すことができました。周囲を見てもそうですが、今回のレースではなかなか簡単にオーバーイクはできませんでした。でもクルマはもともと良い車でした。結果的に2台とも入賞してポイントを得ることができ、良い週末になりました。残り2戦では優勝を狙っています。